

様式第2号（第9条関係）



2025 (令和7) 年 2 月 4 日

尾花沢市議会議長 殿

会派名

代表者（無会派議員）名

鈴木清

調査研究報告書

次のとおり政務活動事業を実施しましたので報告します。

事業名	2025年地方議会議員政策セミナー
期 日	2025年 1 月 27 日（月）～2025年 1 月 28 日（火）
主な利用 交通機関	JR新幹線, 在来線
実施場所	TKP神田ビジネスセンター (東京都千代田区神田美土代町3-2 神田パビル)
調査研究 内 容	① 地域公共交通と新しい移動手段を考える 一減便、運転手不足から交通DX、ライドシェアまで 講師 西村 茂 ② 交通のデジタル化 MaaSの実情へ群馬県 群馬県議会議員 酒井宏明 上記を本市の公共交通再編、共創MaaSの参考と して調査研究した。
参加者	鈴木清

※添付書類：参加者全員が所感等を任意様式にまとめ添付する

2025年 地方議会議員政策セミナー【所感】

Date 2025年1月28日

鈴木 清 No. 1

I. 地域公共交通と新しい移動手段を考える

一減便、運転手不足から交通 DX、ライドシェアまで一

にしむら しげる
講師：西村 茂

自治体問題研究所理事・金沢大学名誉教授

昨夏の「自治体学校」に引き続き、地域公共交通の「政策セミナー」に参加した。講師は昨年同様の西村茂教授で、学術的な講座と、「交通のデジタル化 MaaSの実情(群馬県)」を群馬県議の酒井宏明氏よりお話しいただいた。内容は、公共交通の減便・廃止、運転手不足の現状から、国土交通省の地域公共交通政策、ライドシェアの対応、MaaS・デジタルサービスを国際比較から日本の特徴を指摘。理論的課題とともにMaaSの群馬県の実情から課題が提起された。以下所感をまとめた。

① 国交省の方針・戦略による共創とリ・デザイン

地域公共交通の目的や定義は、2007年「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に則っている。次いで、基本方針は、2013年「交通政策基本法」で、また2018年「地域公共交通のはじめの一步」が出されている。2023年「活性化・再生法」の改正で現在に至っている。改正法は、地域の関係者の連携と協働(共創)を通じ、利便性・持続可能性・生産性が高い地域公共交通ネットワークのリ・デザイン(再構築)を進めるものとされている。

② 本市では、路線バス・福祉バス等あるもののデマンド交通の歴史が欠落している。公共交通の進化にかみ合っていない。運転手不足対応には、タクシー事業者によるライドシェアが観光商で発展。交通弱者・空白地域解消や統合小学校のスクールバスの現乗の課題、デマンドによるスマホ利用の課題など課題は山積みと思われる。

③ MaaSは目的ではなく、あくまでツールである。(Mobility as a Service) 「移動の選択肢」があることが、MaaSの前提となる。選択肢がない地域での移動が自家用車に依存している場所ではMaaSは

実現できない。すなわち MaaS は単にスマホのアプリで、ルート検索・予約・購入ができる各種サービスの統合ではなく、選択肢を増やす移動サービスの構築であるべきという。フランスでは「より環境に優しい交通手段のシフト」と「行動変容を促すためのツール」と強調されている。

④ よって MaaS の課題は「財政支援が必要なこと」と「農村部でも多様な交通手段を提供することが重要」と指摘している。

⑤ まとめると、地域公共交通は交通・教育・福祉、交通DX のミックスされた総合戦略を立てて解決していく時代に入っていると思われる。全国には沢山の実践例があるため、多種多様に学び活用していただきたいと思う。
(本市でも)

私の西村教授への質問と回答は以下の通り。

Q スクールバスに市民が一緒に乗る「混乗^{こんじょう}」はどう理解していただければ良いか。また全国で混乗の実例があれば教えていただきたい。

A 石川県珠洲市(すずし)等では、すでにスクールバスでの混乗が進んでいる。「知らない大人が子どもと一緒に乗ることをどう考えていけば良いか」をPTAの保護者に理解していただく必要がある。少ない財源でスクールバスを効率的に利用する視点、高齢者が病院に行くのを優しい目線で混乗することに子ども達の理解を得る必要がある。鳥取県伯耆町(ほうきちょう)(人口1万人)の例も参考にしてください。

II. 交通のデジタル化 MaaSの実情～群馬県

群馬県議会議員 酒井宏明

群馬県は、自動車依存度が高く（免許取得率全国1位72%、自動車保有台数全国2位1.08人/台）、交通のデジタル化に力を入れ“Gun MaaS(グンマース)”を全県下で行っている。

Gun MaaSのサービスは

- a. 路線バス
- b. デマンド交通
 - デマンドバスは「るんるんバス」「ふるさとバス」「城南あおぞら号」
 - デマンドタクシーは「愛タク」「乗合タクシー」「愛のりくん」など。
 - 「渋川こどもデマンド」は塾通いに利用。(高山奇市の「ぐるりん」バスは無料。デマンドバスは片道一律100円が多い。)
- c. シェアリングサービス
(EVカーシェアリング・シェアサイクル)

—があり、国の財源「デジタル田園都市国家構想推進交付金」を利用している。スマホひとつで経路検索・デマンド交通予約・電子チケット購入と利便性が高い。

以上の様々なサービスは“高齢者など交通弱者の交通権”として位置づけ、“クルマが無くても安心して暮らせるまちづくり”をめざしている。群馬県内の中小私鉄とJR吾妻線の全線存続が決定し、Gun MaaSの利用者にアンケートをお願ひし、更に改善しようとしている。

このような県単位のMaaSの実情報告は初めてなので、山形県も参考にしてほしいものだ。群馬県下全市町村に、乗合バス補助・バス運行対策費があり、県のリーダーシップが強いと感じた。